

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 27 年 6 月 15 日現在

機関番号：15101

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2012～2014

課題番号：24500700

研究課題名(和文)インクルーシブな生涯教育のための「教えないダンス指導」の検証

研究課題名(英文)Verification of the Effectiveness of the Dance Lessons Aimed at "Not to Teach Too Much" Approach for the Lifelong Inclusive Education.

研究代表者

佐分利 育代(Saburi, Ikuyo)

鳥取大学・地域学部・教授

研究者番号：60093598

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,300,000円

研究成果の概要(和文)：「受け取り」「渡す」ことを、指導や活動のメインに据え、学習の各段階で自己表現としてのダンスを体験してもらおうとする指導方法を検証した。6カ所での3年間の継続指導と、ダンス未経験の幼児から中高年の11グループへの単発的な指導を実施、ビデオ観察した。その結果、短時間でも、「各々の生活経験に基づいた自己表現としてのダンスを体験させられる」指導法であることが検証できた。また継続指導で「グループとしての繋がりがあふ表現が増した」ことが共通に検証できた。そして指導者が学習者の表現を「受け取る」際の「共感」「驚き」「賞賛」の言葉が確実に学習者全体に伝わることで、クラス全体の方向づけに必須であるとの示唆を得た。

研究成果の概要(英文)：The object of this study is to verify the effectiveness of the dance lessons centering on the key movements of "receiving (accepting)" and "passing" at each stage of learning for the students who will go through experiences of expressing themselves. We observed by way of verification 6 dance classes, which continued 3 years, and 11 dance lessons, which are offered only once respectively. As a result, it was proved that through this approach the students could express their thoughts and ideas which stemmed from their own experiences in life. With the 6 classes, which continued for three years, it was proved that the dance performances with internal coherence as a group were on the increase. The observation of the videos also indicated that the leader's "sympathy" "surprise" and "praise"-filled comments at the moment of "receiving" the students' movement are certainly necessary to encourage and guide the students for better performance.

研究分野：舞踊教育

キーワード：インクルーシブダンス 生涯教育 教えないダンス指導 受け取り渡す 短時間でのダンス体験 グループとしての繋がり

1. 研究開始当初の背景

中学校でのダンス必修化を背景に教員の再教育や手引き書の発行が急がれている。男女必修化に伴うダンス授業の変容として、東京都立中学校を対象とした調査で中村は、「男女必修での実施が着実に進んできている反面 単元時数の減少が見込まれ、指導経験の少ない教員が担当する割合の増加とともに学習の質が低下する可能性が示唆された」としている(中村 2010)。また、指導経験の少ない教員にも、生徒に豊かなダンス経験を与えられるための指導の手がかりが課題であるとしている。20年以上前から、インクルーシブなダンスを日本に紹介しているヴォルフガング・シュタンゲは、「真似し合う」ことで、互いの、とりわけ障がい者の想像性を高めることを提唱している。研究者も、様々な障害のある人や、インクルーシブなグループでのダンス指導研究より、「真似し合う」ことでの「教えないダンス指導」が、学習者の様々な個性に応じた内容を含む、「誰にでもダンス指導ができる」方法との仮説を得、「教えないダンス指導」を提案したいと考えた。

2. 研究の目的

自己表現としてのダンスの体験は、表現したいものへ向けての自己課題解決学習の体験であり、活動そのものに個に応じた内容が含まれることから、ダンスはインクルーシブな集団での指導に向いている領域であるといえる。本研究では、ダンス指導は自己表現すなわち自己課題解決学習の援助であるという立ち位置から、幼児から高齢者まで、また障害を持つ者にも持たない者にも、さらに一人一人の生涯教育としても楽しみ続けることのできるダンスを考え、クラスみんなが『享と表現』を繰り返し、指導者も表現を真似つつ援助する「教えないダンス指導」の有効性と、指導の際の必要最低限の条件を実践と縦断的調査を通して明らかにする。

3. 研究の方法

研究者による指導の実践を、指導後、指導補助者や助言者(学校に於いてはその教員、校長等)の観察に基づいた評価と、固定したビデオカメラ1台で収録したクラス全体の活動の流れと参加者の活動を中心に評価で検証した。重視したのは、クラス全体の活動が学習者自身の自己表現を発揮できる環境になったかで、手がかりの提示、指導言、学習者同士の関わり、学習者の表現を取り出した。対象とした指導は以下のようである。

(1) 当該年度3年間の継続的指導

・精神障がい者の作業所での秋季から冬季にかけての約2時間ずつ10回のダンス指導
・重度身体障がい者施設及び、インクルーシブなグループでの約1時間ずつ月1回の指導
・異言語圏(ホーチミン)の知的障がい児学校3校での年1回の指導(研究者による指導

の間に、研究者の指導理念を踏襲した各学校指導者による継続的な指導が行われた)

(2) 初体験者(2~70歳代)への単発の指導
・T 幼稚園の幼児と保護者グループ
・T 特別支援学校中学部 それぞれ3年間異なる対象への指導

・Y 養護学校中学部2クラス
・M 小学校1年生普通学級と特別支援学級の合同クラス
・女性対象の学び直し講座
・会社OB会向けの講座(男性)

特にY 養護学校中学部での2クラスは、2015年1月14日にそれぞれ1時間ずつ行い、本研究最後の確かめとした。

4. 研究成果

全員が円になって座ったところで「ビーチボールや、布や、ポリ袋等の手がかりとなるものを隣からもらい反対の隣へ渡す活動を行う」「隣の人に拍手を送る」「隣の人動きを真似て反対の隣へ伝える」など、誰にでもできる『受け取り』『渡す』(真似し合う)、すなわち『享受と表現』という自己表現そのものから始めるダンスは以下の点で、生涯教育として、また、インクルーシブなグループ活動でもダンスへの一歩を体験させ、さらに表現技能を伸ばすのに有効であった。

(1) 単発のクラスにおいても、初体験のダンスに対する不安や抵抗感が少なく活動できた。それは、隣に座った人という、小さな動きでも届く相手に自分を伝えることからの開始、さらに、円という隊形の特徴からメンバー一人一人の『享受と表現』をクラスみんなが繰り返し観ることができることによると推察できた。

(2) メンバーの様々な個性が現れた『享受と表現』を繰り返し観ることで、自分の順番になったら何をすることが学習できる。指導者は最初の『渡す(表現)』を動きで提示するだけで、教えなくても活動を促すことができた。

(3) 円のメンバーによる活動の繰り返しの中に、メンバーそれぞれの動きの速度や渡し方、受け取り方に違いがあることや、メンバー各々の生活経験に基づいた表現の違いを観ることで、その人らしさの面白さや価値を短時間で理解させられた。

(4) 『受け取り』『渡す』相手を隣の人から少し離れた人に設定することで、長く、変化のある動きの言葉での表現の自発的な出現がある(表現技能の獲得への可能性)。

また、3年間継続した活動からは以下のことが特筆できた。

(1) 教師対子ども、スタッフ対施設利用者など、日常的に、「個」対「援助者」の関係で

活動することの多い、ホーチミン市の養護学校や、重度身体障害の施設利用者での共通点として、1年目のダンスクラスでは、個々バラバラの活動が中心だったが、3年目にはクラスにグループとしての繋がりある表現が出現した。具体的には、知的障害のある児童では友だちの活動を見ることができ、それを手がかりとした学習もできるようになった。また、重複の子どもを含めた円を自主的に創り、その児童に関わりながらのダンスを楽しんだ。重度身体障害の人にも一緒に活動する人のところへ車椅子を動かしたり、手を取ったり、メンバーの動きを真似たりが見られた。

(2) 精神障害の作業所では、1年1作品を創って発表した。3年目の作品は、「統合失調症」である自分が作業所に入ることでそれまでの生活から新しいことへのチャレンジという経験を積めたことを表現したいとの1メンバーの思いを、他のメンバーも受け取りながらのものになった。ダンスを通じた障害との対峙が見られたといえる。

(3) インクルーシブなグループでは、メンバー互いの表現を認め合う雰囲気が高まり、初めて活動に参加する人も、自分の順番には自己を発揮でき、メンバーとのダンスを楽しんだ。グループ全体の包容力や、ダンスへの環境ができたといえる。

以上のような検証結果から、表のような指導過程が、インクルーシブなダンス活動を可能にし、各年齢や生活経験を反映しながらの活動を引き出す生涯教育の手がかりとなるものとして提案できる。

表1 「教えないダンス指導」の過程

過程	内容とねらい
はじめ	「渡す」と「受け取る」の練習 円になって隣の人から動きをもらい、次の人に動きを渡す。動きをを真似たり、変えたりしながら、次の人に渡す。表現と享受の楽しさを知る。
なか	「動きを見つけて共有する」 円になって、物やイメージから見つけた動きをみんなで真似る。
か	自己を発揮し、認め、認められる体験を共有する。
おわり	「見つけた動きを続けて動く」 みんなで出し合った動きを続けて表現する。 場面やエネルギーの変化など、ダンスの特性を味わう。

初めてのメンバーとのダンス学習では、「はじめ」の段階の前に、学習者と指導者の『体の動き』の真似し合いによる「ダンス・イントロダクション」で、体によるコミュニケーションの成立を確かめた。

さらに、ホーチミン市での通訳を通じた指導からは、指導言と学習環境に関する以下のような示唆を得た。

(1) 指導言は、指導内容の説明よりも、学習者の活動への「共感」「驚き」「賞賛」が有効である。それが、学習者全体に伝わるのが活動の方向づけに必須である。

(2) ダンスの場に、学習者を引きつける物が多くある環境では、その環境よりも学習者を強く引きつける学習の手がかりの明確な提示が必要である。

ダンス指導が、名人芸ではなく、誰にでもできるようにと言うのがこの研究の目的であった。しかし、研究1年目のインタビューで、インクルーシブなダンス指導の先駆者であるヴォルフガング・シュタンゲ氏に「誰でもダンスはできるが、ダンスを教えられるとは言えない」との指摘を得ている。様々な指導者での確かめを今後の課題としたい。

参考文献

中村恭子 中学校体育の男女必修化に伴うダンス授業の変容 - 平成19年度、20年度、21年度及び24年度の年次推移から - (社)日本女子体育連盟学術研究第21号 55-62 2010

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計 1件)

佐分利育代 特別支援教育での表現ダンスの指導 女子体育 査読無し vol.55-8・9 2012 pp.22-25

〔学会発表〕(計 5件)

佐分利育代 障害のある人たちに教わったダンスのこと 日本教育大学協会全国保健体育・保健部門第34回全国創作舞踊研究発表会 2015年2月8日 筑波大学
佐分利育代 障がい者のダンスソロ作品創作過程に見られる運動要素の変化 日本体育学会第65回大会 2014年8月27日 岩手大学

佐分利育代 インクルーシブダンス「星のいり口」に参加しませんか 日本教育大学協会全国保健体育・保健部門第33回全国創作舞踊研究発表会 2013年12月21日 鳥取県民文化会館

佐分利育代 様々な障害、年齢、インクルーシブなグループとのダンス-自己表現としての活動を妨げたもの 日本体育学会第64回大会 2013年8月28日 立命館大学

田中悦子 佐分利育代 ヴォルフガング

グ・シュタンゲのダンス指導-障がい者の
創造性を引き出す言葉かけ- 日本教育
大学協会全国保健体育・保健部門第32回
全国創作舞踊研究発表会 2012年12月
22日 前橋市民会館

竹森 民枝(TAKEMORI Tamie)

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕

出願状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計 0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕

ホームページ等

6. 研究組織

(1) 研究代表者

佐分利 育代 (SABURI Ikuyo)

鳥取大学地域学部教授

研究者番号：60093598

(2) 研究分担者

()

研究者番号：

(3) 連携研究者

()

研究者番号：

(4) 研究協力者

HUYNH THI THANH BINH

HOANG THU HUONG

TRUONG THANH LOAN

VO THI KHOAI

田中 悦子(TANAKA Etsuko)

長谷川 茜(HASEGAWA Akane)

小松 希梨子(KOMATU Kiriko)

加藤 朋子(KATO Tomoko)

吉田 智子(YOSHIDA Tomoko)